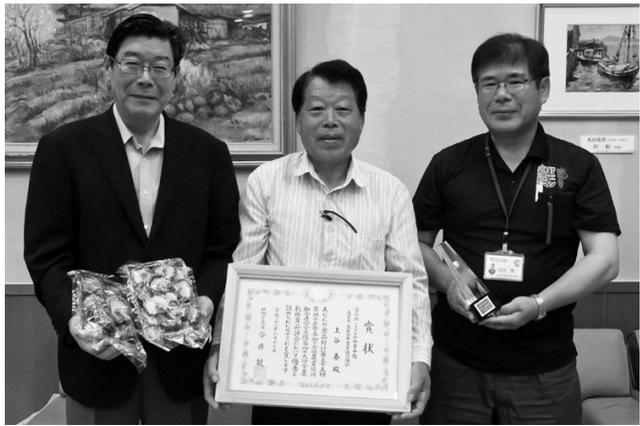


## 里山の恵みが凝縮された極上の原木シイタケ 第49回全農乾シイタケ品評会



受賞を喜ぶ上谷さん（中央）

全国の乾シイタケ生産者の技術の研さんと生産意欲の高揚のため、第49回全農乾シイタケ品評会が、6月15日、埼玉県で開かれ、上谷春さん（久住）が、中葉中肉の部で林野庁長官賞を受賞しました。

また、5月29日に開かれた第58回鳥取県シイタケ品評会では、大葉中肉と中葉中肉の2部門で、最優秀となる鳥取県知事賞を受賞。上谷さんは、7月8日に役場へ報告に訪れ、「今年は、雪が少なく心配したが、良いものができ、うれしい」と笑顔を見せました。

シイタケ栽培は、原木となるほ

だ木の造成から、収穫までのほだ場の温度・湿度管理など、重労働を伴う手間のかかる作業が続きます。上谷さんは、長年の経験や勘をたよりに、シイタケ栽培だけでなく、ほだ木やほだ場の管理にも力を注いできました。その熱意と技術が認められ、県シイタケ品評会のしいたけ管理技術コンクール・ほだ場管理の部で優秀賞にも選ばれました。

町では、現在、生産者の高齢化や後継者不足、若者のシイタケ離れといった課題を抱えています。しかし、今回、同シイタケ品評会において、日野町椎茸生産組合（藤澤章組合長）が、県下で出品率が高かった団体に贈られる団体奨励賞を受賞。上谷さんだけでなく、町内の生産農家が、そうした課題解決やシイタケの販路拡大を目指し、シイタケの品質向上に取り組んだ結果といえます。

「目標は農林水産大臣賞。来年も上を目指して頑張りたい」と上谷さん。日野町の里山の恵みを凝縮した原木シイタケのブランド化や販路拡大など、今後の展開が大いに期待されます。

## 「日野暮らしのコツ」学ぶきっかけに 日野郡I・J・Uターナー者とじげの者<sup>もん</sup>交流会



愛情たっぷりの手料理を片手に会話も弾む

日野郡内に移住した人と地元住民が、お互いを知りながら交流を深めてもらおうと、7月22日、日野郡I・J・Uターナー者とじげの者交流会（日野郡3町・鳥取県主催）が山村開発センターで開かれました。

当日は、日野郡内外から約50人が参加。自己紹介や抽選会などが行われたほか、地元食材をふんだんに使った手巻き寿司やラタトゥイユなどの料理もふるまわれ、交流に花を添えました。田舎暮らしのコツやまちづくりのヒントを見つける一日となったようです。

## 自然やふるさとへの愛情を育てたい 保育所でアユつかみ取り大会



やったあ。大漁だ！

7月28日、ひのっこ保育所（津地）で、アユのつかみ取り大会が開かれました。

これは、アユのつかみ取りを通して、自然に対する理解を深め、ふるさとへの愛情を育てたいと、町水産振興連合会（生田正明会長）が毎年行っているものです。

当日は、約250匹のアユがプールに放されました。園児たちは大歓声を上げながらアユを追いかけ、つかまえると、「つかまえた〜」と笑顔を見せていました。



小椋さん（中央）らは透き通った美しい歌声を披露



息の合ったコーラスは日ごろの練習のたまもの

心身ともに健康に、いつまでも美しい歌声を  
日野川合唱フェスティバル

また、演奏会の第2部には、ソプラノ歌手の小椋美香子さん、アルト歌手の米澤幸さん、ピアノの稲毛麻紀さんが特別演奏を披露しました。小椋さんらは軽妙なトークを織り交ぜつつ、「ぶどう摘み」「秋の歌」など8曲で美しいハーモニーを響かせ、観客を魅了していました。

各グループはお揃いの衣装で登場し、童謡や唱歌、ポップスなどさまざまな曲で息の合ったコーラスを披露。満員となった会場では一曲終わるごとに大きな拍手が送られていました。

当日は、8グループが参加し、日野町からは3つの合唱団が日ごろの練習の成果を披露しました。はじめに、日野川合唱連盟の伊藤万有美会長が「同フェスティバルは12回を迎えたが、前身の日野郡合唱フェスティバルから数えると21回となる歴史ある演奏会。これからも日野川流域に音楽活動を広めていきたい」とあいさつしました。

日野川沿いの町（伯耆町・江府町・日野町・日南町）で活動している合唱団が一堂に会し、日ごろの練習の成果を発表する、第12回日野川合唱フェスティバル（日野川合唱連盟主催）が、7月24日、町文化センターで開かれました。

## クマに注意！

クマは初夏から夏にかけて繁殖に入るため、特にオスは広い範囲で活発に行動します。次のことに注意しましょう。

▼クマと遭遇しないために

- ・家の周りや畑にエサとなる生ごみを捨てたり置いたりしない。
- ・入山する際は、ラジオや鈴を携帯し、音を出しながら行動する。
- ・クマは、朝や夕方に活発に行動するため、朝や夕方に1人で入山しない。

▼もしクマと遭遇してしまったら

- ・落ち着いて、クマから目を離さず、ゆっくり後ろへ下がってその場を去る。※大声を出したり、物を投げつけたりすると、クマは興奮します。

▼クマを発見したら、すぐ連絡！

役場産業振興課（電話72 - 2101）までご連絡ください。




あいさつと共に熱心に声をかける

犯罪や非行のない明るいまちづくりを呼びかける  
社会を明るくする運動

7月の「社会を明るくする運動」の強調月間に合わせ、初日の7月1日、JR根雨駅で関係者らによる街頭啓発活動が行われました。この運動は、すべての国民が犯罪や非行の防止、罪を犯した人たちの更生について理解を深め、犯罪や非行のない明るい社会を築こうとするもので、全国で昭和26年に始まり、今年で66回を迎えます。根雨駅では、朝の通勤・通学の時間に合わせ、高校生らに呼びかけながら啓発用品を配布し、明るいまちづくりを呼びかけました。